



スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

オリンピック・パラリンピック競技大会の 結果等について

令和3年 9月29日

スポーツ庁競技スポーツ課

オリンピック・パラリンピック競技大会等に向けた国際競技力の向上の支援

継続的な支援

「スポーツ基本計画」(H29.3.24)及び「競技力強化のための今後の支援方針(鈴木プラン)」(H28.10.3)を踏まえ、トップアスリートが能力を最大限に発揮できるよう、トレーニング環境の充実及び各競技に応じたきめ細かな支援を実施。

トップアスリートの強化活動の支援

競技力向上事業

- ・各競技団体が行う日常的・継続的な強化活動を支援
- ・次世代アスリートの発掘・育成への支援や、ハイパフォーマンスに関する取組全般を統括する人材等の育成を支援するなど戦略的な支援を実施

ハイパフォーマンス・サポート事業

- ・メダル獲得が期待される競技をターゲットとして、多方面から専門的かつ高度な支援を戦略的・包括的に実施
- ・オリパラ大会において、アスリート等が競技へ向けた最終準備を行うための医・科学・情報サポート拠点を設置

我が国のトップアスリートの活躍



(写真:アフロスポーツ/JOC) Photo by 有限会社エクスワン (JPC提供)

アスリートを多方面から支援



Photo by 有限会社エクスワン (JPC提供)



(写真:アフロスポーツ/JOC)

支援

支援

トップアスリートのための強化・研究活動等の拠点構築

(独)日本スポーツ振興センター ハイパフォーマンススポーツセンター

オリンピック競技とパラリンピック競技を一体的に捉え、スポーツ医・科学研究、スポーツ医・科学・情報サポート及び高度な科学的トレーニング環境を提供する拠点

国立スポーツ科学センター(JISS)



- ・スポーツ医・科学研究、スポーツ医・科学、情報サポート、スポーツ診療などを実施

ナショナルトレーニングセンター(NTC)



- ・トップアスリートが集中的・継続的に強化活動を行う中核拠点
- ・令和元年6月、オリパラ競技の一体的な競技力強化を支援するため、NTCイーストが竣工

連携

NTC競技別強化拠点

- ・冬季、海洋・水辺系、屋外系競技などの強化拠点について、既存のスポーツ施設を競技別のNTCに指定
- ・ハイパフォーマンススポーツセンター及び近隣の関係機関・施設との連携等による機能強化を推進

スポーツ支援強靱化のための基盤整備事業

- ・ハイパフォーマンススポーツセンターを中心として、感染症等の様々な制約を受ける状況にあっても継続的に選手強化が行われるレジリエントなシステムを構築

直前期～大会中のサポート

- 選手・スタッフが**競技へ向けた最終準備**を行うために必要な環境(スポーツ医・科学、情報面等のサポート)を提供。

- 自国開催のため、**ハイパフォーマンススポーツセンター(HPSC)のトレーニング環境等**を最大限に活用。
- **選手村の周辺にサポート拠点を設置**し、HPSCと連携しながら必要なサポートを提供。(ハイパフォーマンス・サポート事業により実施)

[トレーニング機器]



[コンディショニング調整]



オリンピック競技大会におけるメダル獲得数及び入賞数の推移

■夏季オリンピック競技大会

開催年	開催都市（国）	メダル獲得数				4位-8位	入賞数
		金	銀	銅	小計		
2021	東京（日本）	27	14	17	58	78	136
2016	リオデジャネイロ(ブラジル)	12	8	21	41	47	88
2012	ロンドン(英国)	7	14	17	38	44	82
2008	北京(中国)	9	6	10	25	53	78
2004	アテネ(ギリシャ)	16	9	12	37	40	77
2000	シドニー(オーストラリア)	5	8	5	18	42	60
1964	東京(日本)	16	5	8	29	36	65

■冬季オリンピック競技大会

開催年	開催都市（国）	メダル獲得数				4位-8位	入賞数
		金	銀	銅	計		
2018	平昌(韓国)	4	5	4	13	30	43
2014	ソチ(ロシア)	1	4	3	8	20	28
2010	バンクーバー(カナダ)	0	3	2	5	22	27
2006	トリノ(イタリア)	1	0	0	1	20	21
2002	ソルトレイクシティ(米国)	0	1	1	2	25	27
1998	長野(日本)	5	1	4	10	23	33

※JOCホームページ等を参考に、スポーツ庁において作成。
 ※入賞は、東京1964大会は6位まで。その他は8位まで。

2020東京オリンピック

- 日本選手団の金メダル数（27個）、総メダル数（58個）は、ともに過去最多を更新
- これまでメダル獲得がなかった12種目で初のメダルなど、メダル獲得競技・種目に広がり
- 日本史上最年少13歳の金メダリスト誕生など若い世代の活躍（10代のメダリストは8名）
- 女子種目で過去最多14個の金メダルを含む30個のメダル獲得
- 入賞数（4位～8位）が大幅増（近年40～50程度 → 東京2020では78）



（写真：アフロススポーツ/JOC）



（写真：アフロススポーツ/JOC）



（写真：築田純/アフロススポーツ/JOC）

夏季オリンピック過去3大会における日本のメダル獲得競技比較

	ロンドン2012大会	リオ2016大会	東京2020大会
実施競技・種目数	26競技・302種目	28競技・306種目	33競技・339種目
金メダル	7 (11位)	12 (6位)	27 (3位)
	レスリング(4) 柔道(1) 体操(1) ボクシング(1)	レスリング(4) 柔道(3) 水泳/競泳(2) 体操(2) バドミントン(1)	柔道(9) レスリング(5) スケートボード(3) 体操(2) 水泳(2) 卓球(1) 空手(1) ボクシング(1) フェンシング(1) 野球(1) ソフトボール(1)
銀メダル	14	8	14
	柔道(3) 水泳/競泳(3) 体操(2) ウェイトリフティング(1) 卓球(1) バドミントン(1) アーチェリー(1) サッカー(1) フェンシング(1)	レスリング(3) 水泳/競泳(2) 柔道(1) 卓球(1) 陸上競技(1)	柔道(2) レスリング(1) スケートボード(1) 体操(1) 水泳(1) 卓球(1) 空手(1) 陸上(1) サーフィン(1) スポーツクライミング(1) 自転車(1) バスケットボール(1) ゴルフ(1)
銅メダル	17	21	17
	水泳/競泳(8) 柔道(3) レスリング(2) 陸上競技(1) アーチェリー(1) バレーボール(1) ボクシング(1)	柔道(8) 水泳/競泳(8) 卓球(2) 水泳/シンクロ(2) ウェイトリフティング(1) 体操(1) バドミントン(1) 陸上競技(1) カヌー(1) テニス(1)	体操(2) 卓球(2) ボクシング(2) アーチェリー(2) 柔道(1) レスリング(1) スケートボード(1) 空手(1) 陸上(1) サーフィン(1) スポーツクライミング(1) バドミントン(1) ウェイトリフティング(1)
競技数	13競技	10競技	19競技
メダル計	38 (6位)	41 (7位)	58 (5位)

3 大会連続メダル獲得競技（夏季オリンピック）～ロンドン・リオ・東京～

競技数	国名	3大会連続金メダル獲得競技	金メダル数	3大会連続メダル獲得競技	メダル数
7(11)	アメリカ	陸上競技、自転車、水泳、射撃、 <u>体操</u> 、 <u>レスリング</u> 、バスケットボール	110	陸上競技、自転車、水泳、射撃、体操、 <u>レスリング</u> 、ボクシング、フェンシング、バレーボール、バスケットボール、テコンドー	294
6(14)	中国	陸上競技、水泳、射撃、卓球、バドミントン、ウエイトリフティング	79	陸上競技、自転車、水泳、射撃、卓球、体操、 <u>レスリング</u> 、ボクシング、ボート、フェンシング、 <u>バドミントン</u> 、テコンドー、セーリング、 <u>ウエイトリフティング</u>	234
5(14)	イギリス	馬術、自転車、ボクシング、トライアスロン、セーリング	42	馬術、 <u>陸上競技</u> 、自転車、水泳、柔道、射撃、体操、ホッケー、ボクシング、ボート、トライアスロン、テコンドー、セーリング、カヌー	186
4(10)	ロシア	水泳、 <u>体操</u> 、 <u>レスリング</u> 、ボクシング	32	自転車、水泳、柔道、射撃、 <u>体操</u> 、 <u>レスリング</u> 、ボクシング、フェンシング、テニス、テコンドー	162
4(9)	ドイツ	馬術、陸上競技、自転車、カヌー	23	馬術、 <u>陸上競技</u> 、自転車、水泳、柔道、卓球、体操、ボート、カヌー	95
3(8)	日本	<u>柔道</u> 、 <u>体操</u> 、 <u>レスリング</u>	31	<u>陸上競技</u> 、水泳、柔道、卓球、体操、 <u>レスリング</u> 、 <u>バドミントン</u> 、 <u>ウエイトリフティング</u>	105
3(3)	ハンガリー	水泳、フェンシング、カヌー	19	<u>水泳</u> 、フェンシング、カヌー	38
2(6)	オーストラリア	水泳、セーリング	19	<u>陸上競技</u> 、自転車、水泳、ボート、セーリング、カヌー	93
2(6)	韓国	フェンシング、アーチェリー	15	柔道、射撃、フェンシング、 <u>バドミントン</u> 、テコンドー、アーチェリー	56
1(9)	フランス	柔道	6	<u>陸上競技</u> 、自転車、水泳、柔道、射撃、ボート、ハンドボール、テコンドー、セーリング	74
0(6)	イタリア		0	自転車、水泳、柔道、射撃、ボート、フェンシング	63

※ 競技(下線付き)は、日本の金メダル獲得競技、総メダル獲得競技。
 ※ 競技数は金メダル獲得競技数、()内の数は総メダル獲得競技数。

夏季オリンピック過去3大会における日本のメダル獲得数【競技別】

競技	ロンドン2012				リオ2016				東京2020			
	金	銀	銅	4-8位	金	銀	銅	4-8位	金	銀	銅	4-8位
柔道	1	3	3	3	3	1	8	1	9	2	1	1
レスリング	4	0	2	2	4	3	0	2	5	1	1	3
スケートボード	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	1	2
体操	1	2	0	8	2	0	1	9	2	1	2	9
水泳	0	3	8	10	2	2	5	16	2	1	0	13
野球・ソフトボール	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
卓球	0	1	0	4	0	1	2	2	1	1	2	1
空手	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	5
ボクシング	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2	0
フェンシング	0	1	0	3	0	0	0	2	1	0	0	6
陸上競技	0	0	1	3	0	1	1	2	0	1	1	7
スポーツクライミング	-	-	-	-	-	-	-	-	0	1	1	1
サーフィン	-	-	-	-	-	-	-	-	0	1	1	1
自転車	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	3
バスケットボール	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
ゴルフ	-	-	-	-	0	0	0	1	0	1	0	1
アーチェリー	0	1	1	1	0	0	0	2	0	0	2	1
バドミントン	0	1	0	1	1	0	1	3	0	0	1	6
ウエイトリフティング	0	1	0	2	0	0	1	3	0	0	1	3
テニス	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	3
サッカー	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
セーリング	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
馬術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
射撃	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
バレーボール	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1
テコンドー	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1
ボート	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ホッケー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハンドボール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
近代五種	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7人制ラグビー	-	-	-	-	0	0	0	1	0	0	0	0
カヌー	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0
トライアスロン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	7	14	17	44	12	8	21	47	27	14	17	78

※資料作成：独立行政法人日本スポーツ振興センターハイパフォーマンススポーツセンター機能強化ユニットインテリジェンスグループ

※赤字：東京2020追加種目

※東京2020の金メダルから獲得数の多い順番

東京2020オリンピックの結果と各種施策【競技別】

	東京大会						東京重点	NF強化戦略プラン に関する評価(4年/2020)		
	メダル獲得数				4位～8位 入賞数	総計		R1年度	R2年度	R3年度
	金	銀	銅	計						
柔道	9	2	1	12	1	13	S	A	A	B
レスリング	5	1	1	7	3	9	S	A	B	B
スケートボード	3	1	1	5	2	7	S	A	A	B
体操	2	1	2	5	9	14	S	A	A	B
水泳	2	1	0	3	13	16	S	B	A	B
野球	1	0	0	1	0	1	S	B	A	B
ソフトボール	1	0	0	1	0	1	A	A	A	A
卓球	1	1	2	4	1	5	A	B	A	A
空手	1	1	1	3	5	8	S	B	A	A
ボクシング	1	0	2	3	0	3	—	B	B	B
フェンシング	1	0	0	1	6	7	—	B	A	B
陸上	0	1	1	2	7	9	S	A	A	B
スポーツクライミング	0	1	1	2	1	3	S	A	A	A
サーフィン	0	1	1	2	1	3	—	B	A	A
自転車	0	1	0	1	3	4	—	B	B	B
バスケットボール	0	1	0	1	2	3	—	A	B	B
ゴルフ	0	1	0	1	1	2	—	B	A	A
アーチェリー	0	0	2	2	1	3	—	B	A	B
バドミントン	0	0	1	1	6	7	S	A	A	A
ウェイトリフティング	0	0	1	1	3	4	A	A	A	B
テニス	0	0	0	0	3	3	A	A	A	B
サッカー	0	0	0	0	2	2	—	A	A	B
セーリング	0	0	0	0	2	2	A	B	B	B
馬術	0	0	0	0	2	2	—	B	B	C
ライフル射撃	0	0	0	0	1	1	—	B	B	B
クレー射撃	0	0	0	0	1	1		B	B	B
バレーボール	0	0	0	0	1	1	A	B	B	B
テコンドー	0	0	0	0	1	1	—	B	B	B
ボート	0	0	0	0	0	0	—	B	B	B
ホッケー	0	0	0	0	0	0	—	B	B	B
ハンドボール	0	0	0	0	0	0	—	B	B	B
近代五種	0	0	0	0	0	0	—	D	C	B
ラグビー	0	0	0	0	0	0	—	B	B	B
カヌー	0	0	0	0	0	0	—	B	B	B
トライアスロン	0	0	0	0	0	0	—	B	B	B
合計	27	14	17	58	78	136				

冬季オリンピック過去3大会における日本のメダル獲得競技比較

	バンクーバー2010大会	ソチ2014大会	平昌2018大会
実施競技・ 種目数	7競技・86種目	7競技・98種目	7競技・102種目
金 メダル	0 (20位)	1 (17位)	4 (11位)
		スケート/フィギュア(1)	スケート/スピード(3) スケート/フィギュア(1)
銀 メダル	3	4	5
	スケート/スピード(2) スケート/フィギュア(1)	スキー/ジャンプ(1) スキー/ノルディック複合(1) スキー/スノーボード(1)	スケート/スピード(2) スキー/ノルディック複合(1) スキー/スノーボード(1) スケート/フィギュア(1)
銅 メダル	2	3	4
	スケート/スピード(1) スケート/フィギュア(1)	スキー/ジャンプ(1) スキー/フリースタイル(1) スキー/スノーボード(1)	スキー/ジャンプ(1) スキー/フリースタイル(1) スケート/スピード(1) カーリング(1)
競技数	1競技	2競技	3競技
メダル 計	5 (15位)	8 (12位)	13 (12位)

冬季オリンピック過去3大会における日本のメダル獲得数【競技別】

競技		バンクーバー2010				ソチ2014				平昌2018			
		金	銀	銅	4位-8位	金	銀	銅	4位-8位	金	銀	銅	4位-8位
スケート	スピードスケート	0	3	2	11	1	0	0	10	4	3	1	16
	フィギュアスケート												
	ショートトラック スピードスケート												
スキー	アルペンスキー	0	0	0	10	0	4	3	8	0	2	2	12
	クロスカントリースキー												
	スキージャンプ												
	ノルディック複合												
	フリースタイルスキー												
	スノーボード												
	カーリング	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	1
	アイスホッケー	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	ボブスレー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	スケルトン												
	リュージュ												
	バイアスロン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	3	2	22	1	4	3	20	4	5	4	30

パラリンピック競技大会におけるメダル獲得数及び入賞数の推移

■夏季パラリンピック競技大会

開催年	開催都市（国）	メダル獲得数				4位-8位	入賞数
		金	銀	銅	計		
2021	東京（日本）	13	15	23	51	107	158
2016	リオデジャネイロ（ブラジル）	0	10	14	24	73	97
2012	ロンドン（イギリス）	5	5	6	16	70	86
2008	北京（中国）	5	14	8	27	79	106
2004	アテネ（ギリシャ）	17	15	20	52	72	124
1964	東京（日本）	1	5	4	10	—	—

■冬季パラリンピック競技大会

開催年	開催都市（国）	メダル獲得数				4位-8位	入賞数
		金	銀	銅	計		
2018	平昌（韓国）	3	4	3	10	13	23
2014	ソチ（ロシア）	3	1	2	6	20	26
2010	バンクーバー（カナダ）	3	3	5	11	18	29
2006	トリノ（イタリア）	2	5	2	9	16	25
2002	ソルトレイクシティ（米国）	0	0	3	3	32	35
1998	長野（日本）	12	16	13	41	68	109

※JPCホームページ等を参考に、スポーツ庁において作成。

※入賞は原則 8 位まで（順位付けされていない入賞者を含む）。

東京1964大会は入賞者数の情報なし。

2020東京パラリンピック

□ 日本選手団は、金メダル13個を含む、51個のメダルを獲得。総メダル数は、アテネ大会に次ぐ過去2番目の多さ

□ 日本代表が数々の記録更新

- 世界新記録：1 種目
- パラリンピック新記録：5 種目
- アジア新記録：4 種目 等

□ 幅広い世代の活躍

- パラ日本代表 史上最年少14歳メダリスト誕生
- 史上最年長50歳金メダリスト誕生 等

□ 女子種目で4大会ぶり2桁台の16個のメダル獲得

□ 入賞数(4位~8位)も大幅増（近年70前後→今回107）



（写真：エックスワン）



（写真：エックスワン）



（写真：エックスワン）

夏季パラリンピック過去3大会における日本のメダル獲得競技比較

メダル	ロンドン2012大会	リオ2016大会	東京2020大会
実施競技・ 種目数	20競技・503種目	22競技・528種目	22競技・539種目
金	5 (24位)	0 (64位)	13 (11位)
	水泳(2) ゴールボール(1) 柔道(1) 車いすテニス(1)		水泳(3) 陸上(3) バドミントン(3) 自転車(2) ボッチャ(1)、車いすテニス(1)
銀	5	10	15
	陸上競技(3) 水泳(2)	陸上競技(4) 自転車(2) 水泳(2) 柔道(1) ボッチャ(1)	水泳(7)、陸上(3) バドミントン(1) トライアスロン(1)、ボッチャ(1) 車いすテニス(1) 車いすバスケットボール(1)
銅	6	14	23
	水泳(4) 陸上競技(1) 自転車(1)	水泳(5) 柔道(3) 陸上競技(3) 車いすテニス(2) ウィルチェアラグビー(1)	陸上(6) バドミントン(5) 水泳(3)、柔道(2) 車いすテニス(2) トライアスロン(1)、ボッチャ(1) 車いすラグビー(1) ゴールボール(1)、卓球(1)
競技数	6 競技	7 競技	12競技
計	16 (23位)	24 (16位)	51 (11位)

夏季パラリンピック過去3大会における日本のメダル獲得数【競技別】

	ロンドン大会				リオ大会				東京大会			
	メダル獲得数			4位～ 8位	メダル獲得数			4位～ 8位	メダル獲得数			4位～ 8位
	金	銀	銅		金	銀	銅		金	銀	銅	
水泳	2	2	4	19	0	2	5	15	3	7	3	25
陸上競技	0	3	1	31	0	4	3	32	3	3	6	32
バドミントン									3	1	5	4
自転車	0	0	1	3	0	2	0	6	2	0	0	7
車いすテニス	1	0	0	5	0	0	2	6	1	1	2	4
ボッチャ	0	0	0	1	0	1	0	2	1	1	1	1
トライアスロン					0	0	0	1	0	1	1	2
車いすバスケットボール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
柔道	1	0	0	5	0	1	3	4	0	0	2	10
卓球	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	1	4
ゴールボール	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1
車いすラグビー(ウィルチェアラグビー)	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0
アーチェリー	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	5
車いすフェンシング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
シットイングバレーボール	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
テコンドー									0	0	0	2
馬術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
パワーリフティング	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	1
カヌー					0	0	0	1	0	0	0	1
5人制サッカー(ブラインドサッカー)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
射撃	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ボート	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	5	5	6	70	0	10	14	73	13	15	23	107

東京2020パラリンピックの結果と各種施策【競技別】

	東京大会						東京 重点	NF強化戦略プラン に関する評価(4年/2020)※		
	メダル獲得数				4位～8位 入賞数	総計		R1年度	R2年度	R3年度
	金	銀	銅	計						
水泳(身体)	3	7	3	13	25	38	○	A	A	A
水泳(知的)							A	A	A	
陸上競技(身体)	3	3	6	12	32	44	○	B	A	A
陸上競技(知的)							—	B	B	A
ブライントマラソン							○	B	A	A
バドミントン	3	1	5	9	4	13	○	B	A	B
自転車	2	0	0	2	7	9	○	A	B	B
車いすテニス	1	1	2	4	4	8	○	A	A	A
ボッチャ	1	1	1	3	1	4	○	B	A	A
トライアスロン	0	1	1	2	2	4	—	A	B	A
車いすバスケットボール	0	1	0	1	1	2	—	A/B	B/B	B/B
柔道	0	0	2	2	10	12	○	B	B	B
卓球(身体)	0	0	1	1	4	5	—	B	A	B
卓球(知的)							—	B	B	B
ゴールボール	0	0	1	1	1	2	○	B/A	B/A	B/A
車いすラグビー (ウィルチェアラグビー)	0	0	1	1	0	1	○	A	A	A
アーチェリー	0	0	0	0	5	5	○	B	B	B
車いすフェンシング	0	0	0	0	2	2	—	B	B	C
シットイングバレーボール	0	0	0	0	2	2	—	B/B	B/B	B/B
テコンドー	0	0	0	0	2	2	—	B	A	A
馬術	0	0	0	0	2	2	—	B	B	B
パワーリフティング	0	0	0	0	1	1	—	B	B	B
カヌー	0	0	0	0	1	1	—	B	A	B
5人制サッカー (ブライントサッカー)	0	0	0	0	1	1	—	B	B	B
射撃	0	0	0	0	0	0	—	C	B	B
ボート	0	0	0	0	0	0	—	B	C	C
合計	13	15	23	51	107	158				

※男女別でJPCに加盟している団体については、「男子／女子」の並びで評価結果を記載

冬季パラリンピック過去3大会における日本のメダル獲得競技比較

メダル	バンクーバー2010大会	ソチ2014大会	平昌2018大会
実施競技・種目数	5競技・64種目	5競技・72種目	6競技・80種目
金	3 (8位)	3 (7位)	3 (9位)
	クロスカントリースキー(2) アルペンスキー(1)	アルペンスキー(3)	アルペンスキー(1) クロスカントリースキー(1) スノーボード(1)
銀	3	1	4
	クロスカントリースキー(1) アルペンスキー(1) アイススレッジホッケー(1)	アルペンスキー(1)	アルペンスキー(3) クロスカントリースキー(1)
銅	5	2	3
	アルペンスキー(5)	アルペンスキー(1) バイアスロン(1)	アルペンスキー(2) スノーボード(1)
競技数	3 競技	2 競技	3 競技
計	11 (6位)	6 (9位)	10 (9位)

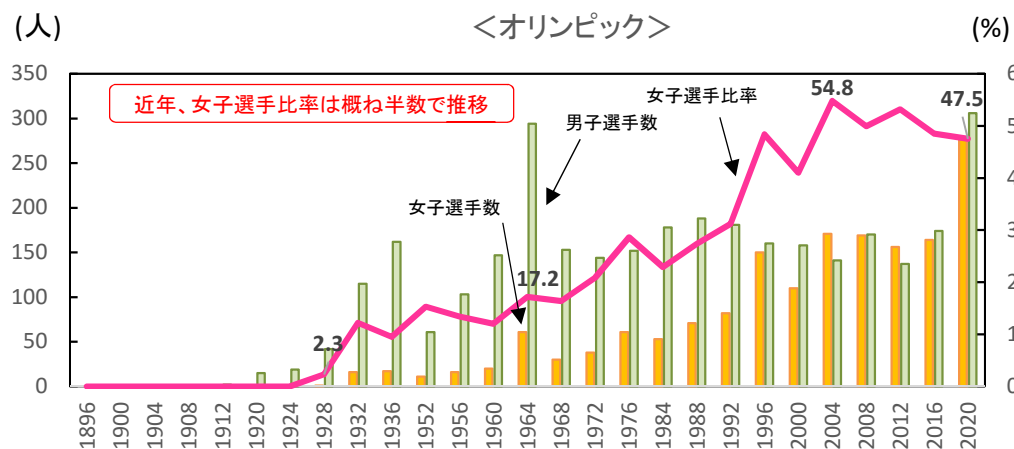
冬季パラリンピック過去3大会における日本のメダル獲得数【競技別】

	バンクーバー2010				ソチ2014				平昌2018			
	金	銀	銅	4位～ 8位	金	銀	銅	4位～ 8位	金	銀	銅	4位～ 8位
アルペンスキー	1	1	5	9	3	1	1	9	1	3	2	7
クロスカントリースキー	2	1	0	5	0	0	0	6	1	1	1	2
スノーボード									1	0	0	2
バイアスロン	0	0	0	4	0	0	1	5	0	0	0	1
アイスホッケー	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
車いすカーリング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	3	3	5	18	3	1	2	20	3	4	3	13

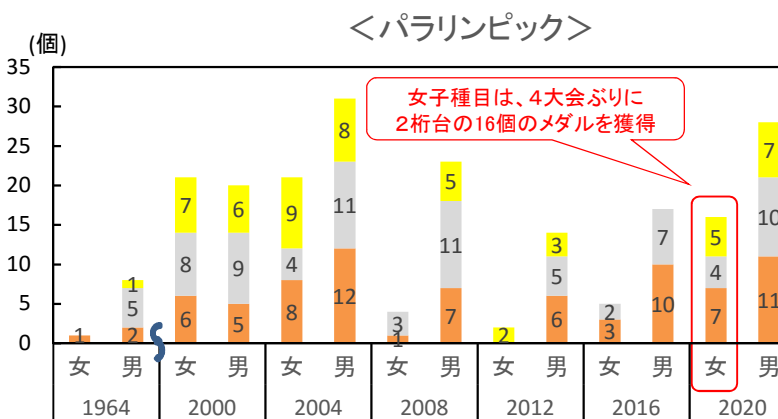
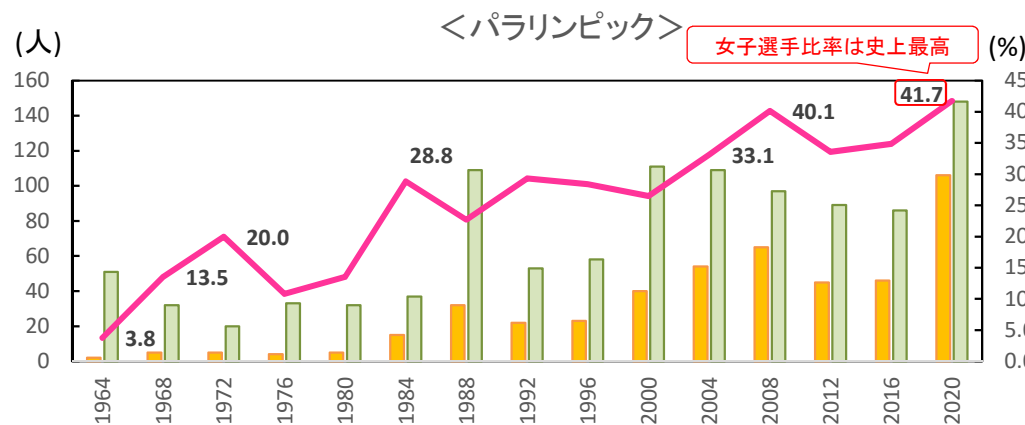
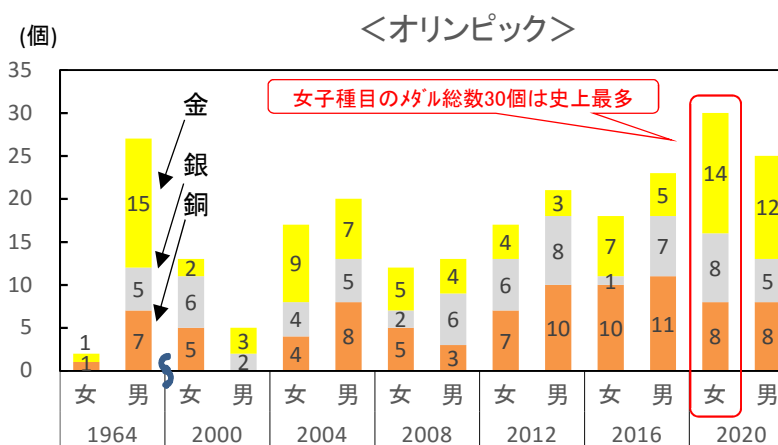
オリンピック・パラリンピック(夏季)における日本選手団の女性の活躍

- ・オリンピック・パラリンピック(夏季)の日本選手団に占める女子選手の割合を見ると、回を重ねるごとに着実に増加し、近年、オリンピックは概ね半数、パラリンピックは3～4割程度で推移しており、東京2020パラリンピック大会は史上最高の41.7%となった。
- ・日本選手団の男女別のメダル数を見ると、東京2020大会においては、オリンピックは計58種目(女子30・男子25・混合3)、パラリンピックは計51種目(女子16・男子28・混合7)でメダルを獲得し、特に、オリンピックの女子種目のメダル総数30個は史上最多であり、また夏季オリンピックで初めて女子種目のメダル総数・金メダル数の両方が男子種目を上回るなど、女性の活躍が際立つ結果となった。

図表1 日本選手団に占める女子選手の割合



図表2 日本選手団の男女別のメダル数



(備考) 1. IOCホームページ、JOCホームページ、JPCホームページ及びJSC提供データより作成。

2. 図表1について、オリンピックのグラフについては、ロンドン1948大会、モスクワ1980大会、パラリンピックのグラフについては、ローマ1960大会は、日本不参加のため除く。

3. 図表2について、男女混合種目は除く。

(内閣府作成)

【参考】第1期スポーツ基本計画策定以降のオリパラ大会におけるメダル獲得目標

開催年	開催都市（国）	オリンピック		パラリンピック	
		スポーツ基本計画の目標	JOCの目標	スポーツ基本計画の目標	JPCの目標
2012	ロンドン（イギリス）	①過去最多を超えるメダル ②過去最多を超える入賞者 ③金メダルランキング5位	金メダルランキング5位 (金メダル数15個)	金メダルランキング17位 (直近大会以上)	①複数競技で金メダル ②団体競技でメダル獲得 ③全競技で入賞
2014	ソチ（ロシア）	①過去最多を超えるメダル ②過去最多を超える入賞者 ③金メダルランキング10位	①金メダル数5個 ②総メダル数10個	金メダルランキング8位 (直近大会以上)	金3個、銀3個を含む 10個のメダル獲得
2016	リオデジャネイロ (ブラジル)	①過去最多を超えるメダル ②過去最多を超える入賞者 ③金メダルランキング5位	①金メダル数14個 ②総メダル数30個	金メダルランキング17位 (直近大会以上)	①金メダルランキング10位 (金メダル数10個) ②総メダル数40個
2018	平昌（韓国）	過去最高の金メダル数を 獲得する等優秀な成績を 収めることができるよう支援	複数の金メダルを含む 9個のメダル獲得	過去最高の金メダル数を 獲得する等優秀な成績を 収めることができるよう支援	総メダル数7個 (直近大会を超える数)
2021	東京（日本）	過去最高の金メダル数を 獲得する等優秀な成績を 収めることができるよう支援	金メダル数30個	過去最高の金メダル数を 獲得する等優秀な成績を 収めることができるよう支援	金メダル数20個

※JOC・JPCの目標については、報道等を基に記載（組織決定ではなく、選手団長の表明によるもの等を含む）
 ※青字は達成した目標。赤字は達成しなかった目標。